

実施手順見直しによる 業務の効率化・簡素化について

(技術提案書提出者数の限定化)

平成22年9月24日
調査設計懇談会資料

(1) 時間、コスト、手間の削減効果について

- ・ 技術提案書作成等の手間の負担は軽減されるが**企業によっては受注機会の減少が懸念**される【建コン協・全測連・全地連】
- ・ 絞込みにより**指名機会が減少し、業者の寡占化**につながる懸念がある【全測連・全地連】
- ・ 効果は概ね期待できると思うが、基礎点で**僅差や低得点の場合は5者に限定すべきでない**【全測連・全地連】

(2) 6位以下の逆転の可能性が無くなることについて

- ・ 評価項目、配点の重み付けの統一など**公平性を保ちつつ選定する仕組みを構築する必要あり**【建コン協・全地連】
- ・ 実績豊富な大手企業と比べて**中小企業にとっては不利になるため、公正な制度とは言えない**【全測連】
- ・ 優れた技術力が報われなければ**企業の研鑽意欲や技術力の低下**につながることを危惧する【全測連】

(3) 5者絞込の導入の是非について

- ・ **受注機会と公平性**が保たれる制度とすべき。5者絞込は**中小企業にとって受注機会の喪失**を意味するため導入に反対【建コン協・全測連】
 - ・ 定型的な業務、通常業務には導入すべきであるが、**特殊性が高い場合は絞込む必要はない**【全地連】
 - ・ 絞込み自体は許容できるが、**公平な技術評価を図るうえで指名数を5者に限定すべきではない**【全測連】
 - ・ **比率1:1は10者、1:2は7者、1:3は5者絞り込みとする**。また意欲のある企業の参加企業を確保出来るような仕組み(21世紀枠)を導入する【建コン協】
- ※青字は肯定的意見、赤字は否定的意見を示す。

分析

- 効果については**応札者は効果がない**との回答が多く、**発注者は効果がある**との回答が多い結果となり、**評価が分かれた**。
- 業界団体ヒアリングにおける意見では、**公平性が損なわれる、受注機会の減少、業者の寡占化、企業の研鑽意欲低下、技術力の低下**など殆ど否定的な評価となった。

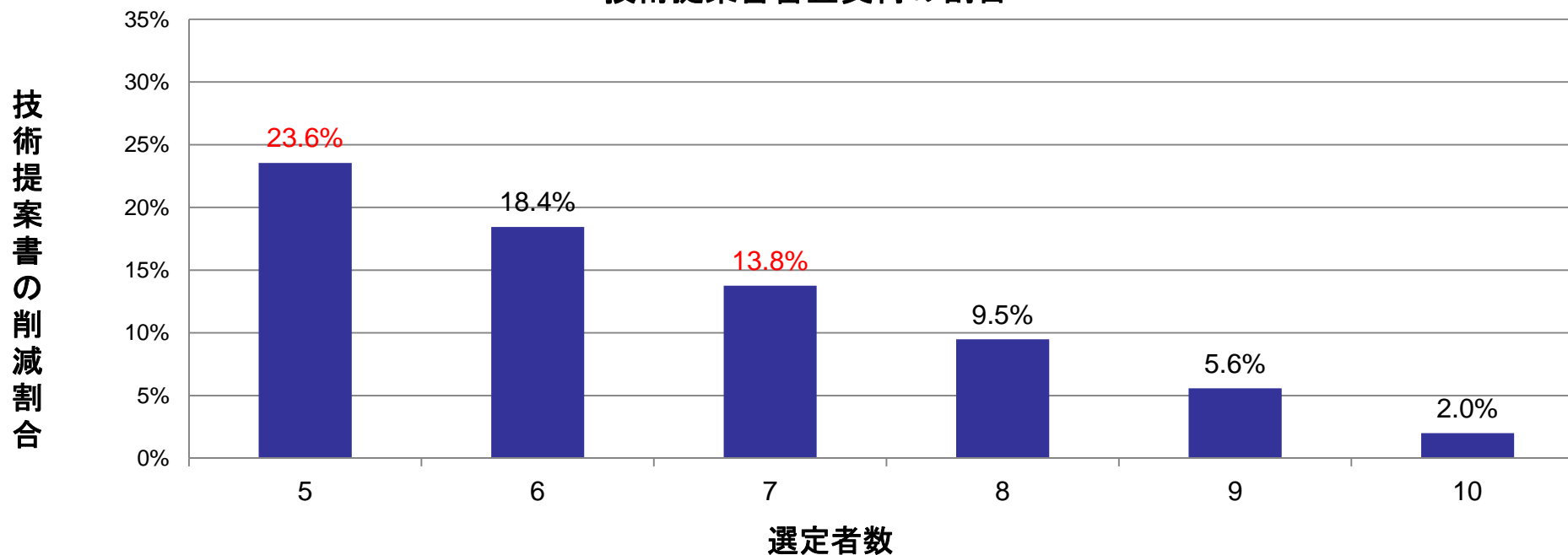
今後の対応

当面の間、現行通りの運用(指名競争で10者絞り込み)とし、絞り込み者数について引き続き検討することとする。

(1) 時間・コスト・手間の削減効果について

・技術提案書にかかる業務負荷は、受発注者ともに10者選定を5者選定とすることで約24%、7者選定とすることで約14%軽減される。

選定(絞り込み)を行った場合に現状より更に削減できる
技術提案書審査負荷の割合



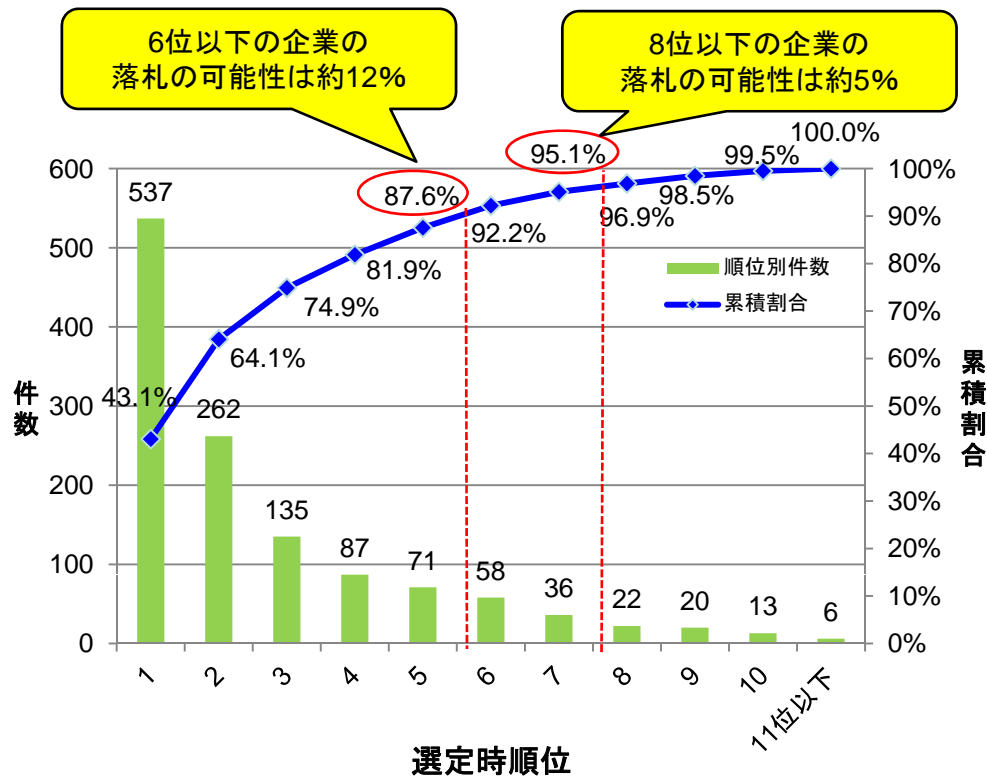
※対象は、平成21年度総合評価落札方式3, 405件(北海道開発局及び8地方整備局において実施した土木, 測量, 地質, 建築, 補償業務、以下同じ)のうち、指名競争により入札を実施したもの(1, 247件)

※技術提案書の審査負荷の削減割合 = $\frac{\text{選定業者数の絞り込みを行った場合に審査が不要となる技術提案書数}}{\text{対象業務(1, 247件)における審査対象技術提案書数}}$

(2)選定時順位が6位(8位)以下の企業の落札状況

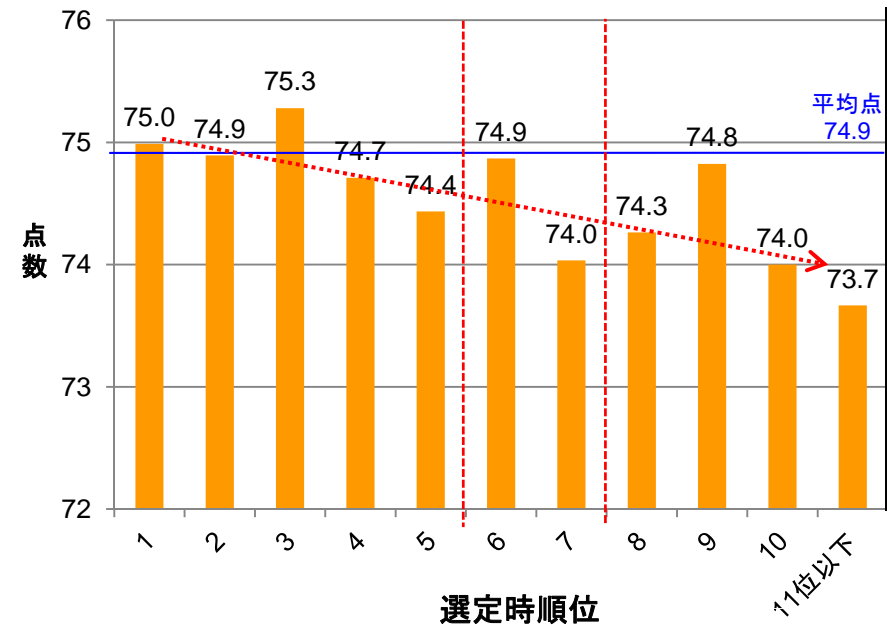
- ・選定時の絞り込み者数を5者にとすると実際の落札者の約88%は変わらず、7者にとると約95%は変わらない。
(選定時順位が6位以下の企業が落札する可能性は約12%、8位以下の企業が落札する可能性は約5%。)
- ・選定時の順位が低いと業務成績評定点は低下する傾向にある。

落札者の選定時の順位分布



【参考】

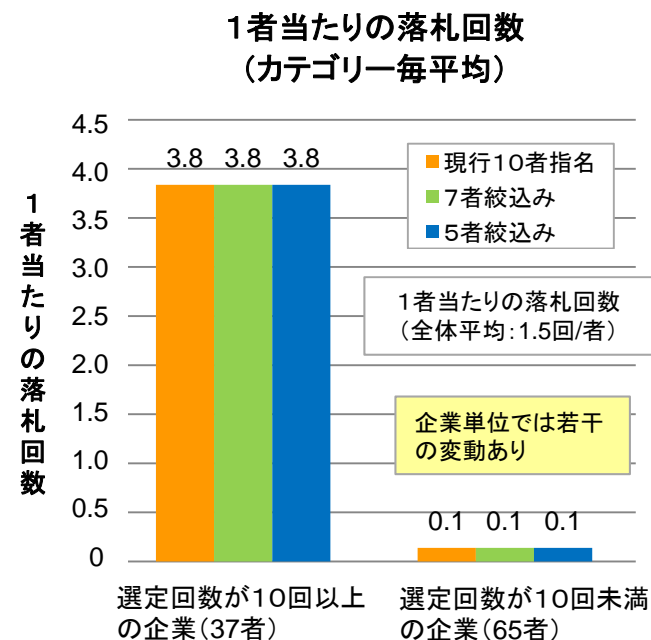
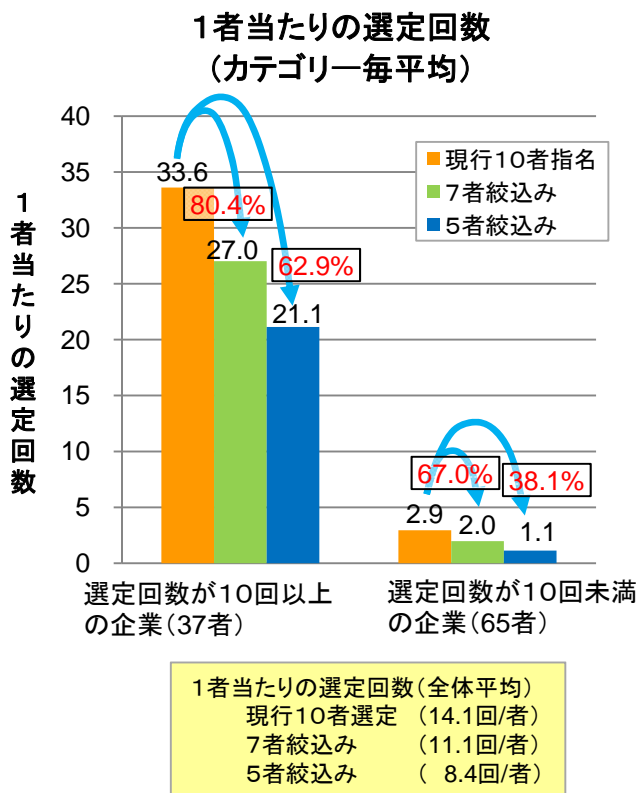
落札者の選定時の順位と業務成績評定点



※対象は、平成21年度総合評価落札方式3、405件のうち、指名競争により入札を実施したもの(1,247件)

(3)5者(7者)絞込みによる選定回数への影響(シミュレーション)

- ・1企業当たりの選定回数は、選定時の絞り込み数を少なくすると減少し、その影響は、現行の選定(ほぼ10者)回数の少ない企業ほど大きい。
- ・なお、選定企業1者当たりの落札回数への影響はほとんどない。

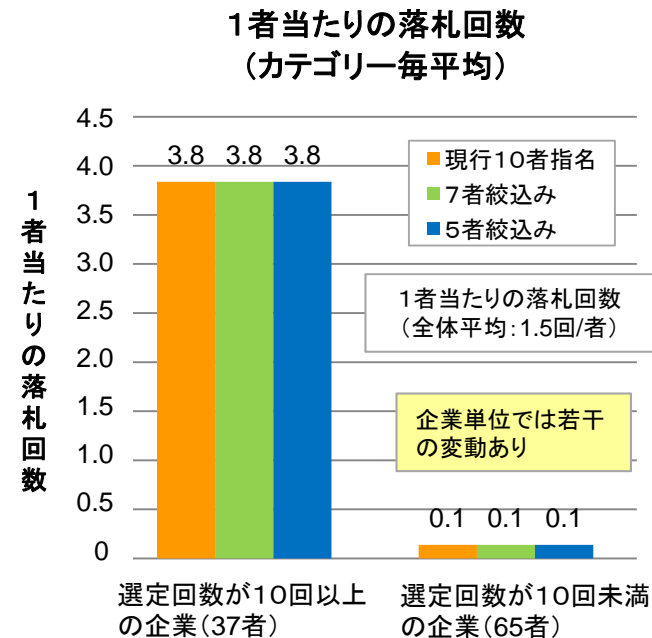
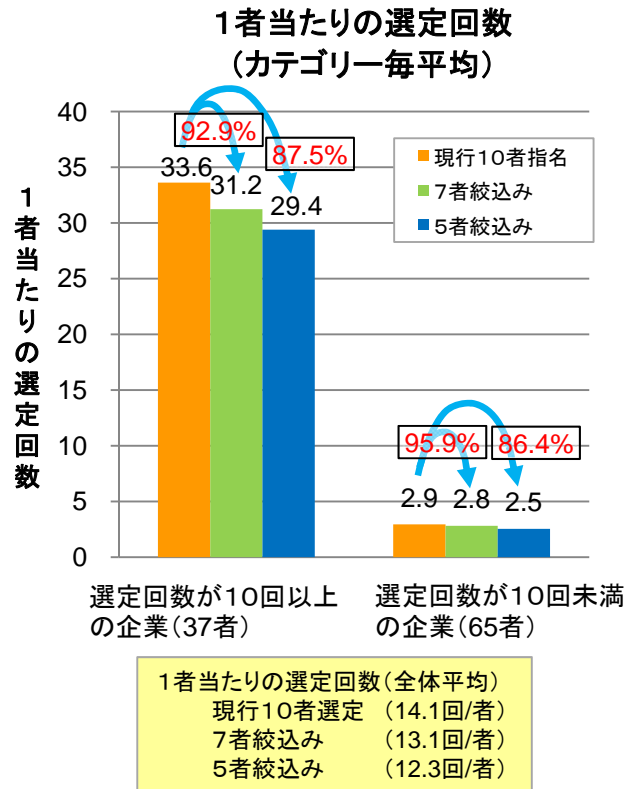


※対象は、平成21年度中国地方整備局発注の総合評価落札方式430件のうち、6者以上の参加表明のあった指名競争入札案件(151件、102企業)

(3)5者(7者)絞込みによる選定回数への影響(シミュレーション)

・絞込みを「価格:技術=1:3~1:2」業務に限定した場合、選定回数別の影響は大きい。

「価格:技術=1:3~1:2」業務のみ
5者(7者)絞込みを行った場合



※5者(7者)絞込みの対象を「価格:技術=1:3~1:2」業務(53件, 58企業)に限定した場合のシミュレーション結果
 (母集団は前ページと同様。平成21年度中国地方整備局発注の総合評価落札方式データによる)

今後の対応

- 技術力の評価を重視する**総合評価方式(1:3~1:2)**において、**指名競争における技術提案書提出者数は5~7者まで限定する試行**を実施する。
 - 試行件数は、各地方整備局毎に1:3~1:2の件数の約1割を目安とし、その結果についてフォローアップを実施する。
- (なお、総合評価方式(1:1)については、新規参入者への配慮から、従来通り選定(10者まで)とする。)